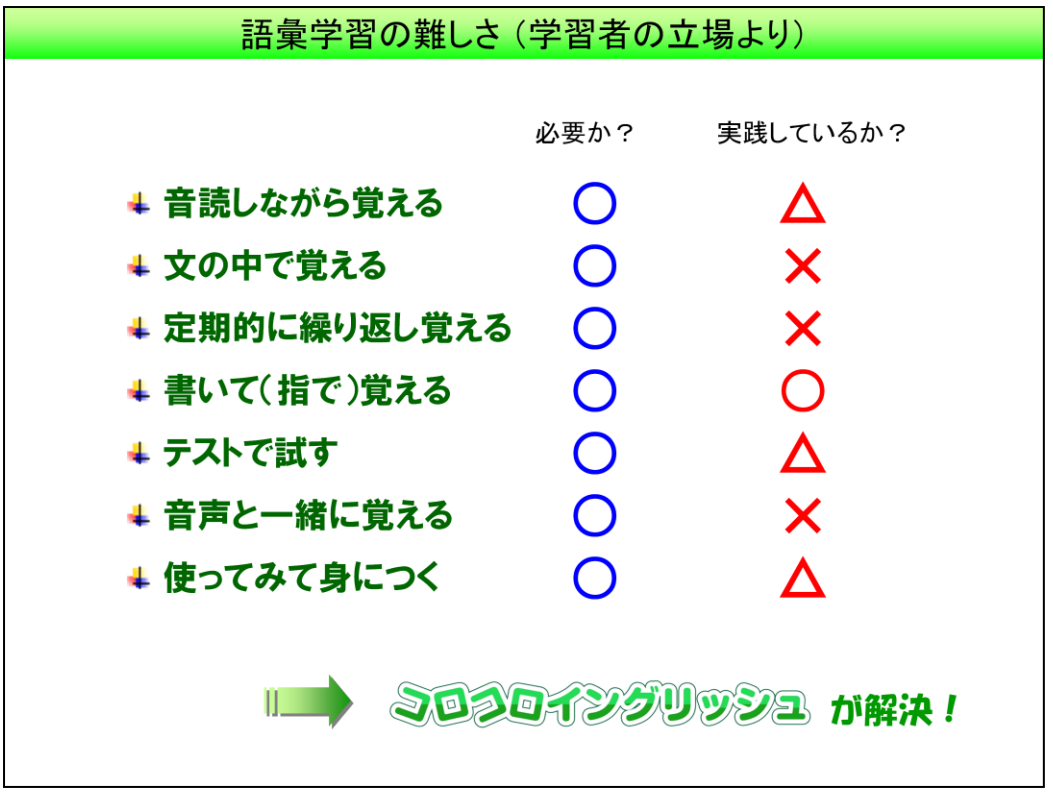
語と語のつながりで身につける英語力

コロコロイングリッシュ®

ColloCollo English

※ 複製禁止
※ 電子媒体での配布禁止
※ 紙媒体での配布は都度ご相談下さい

語彙学習、語彙指導を変える！



学習者に、英単語を覚えるときに必要だと思える項目について答えさせると、ほとんどの項目について「必要だ」と答えます。

ところが、習慣的に日々の英語学習で実践しているかどうかについては、ほとんどの学習者たちは同様にこのように答えます。

このシステムは、これらの問題を解決するために開発されました。

First of all, I'd like to explain the concepts of ColloCollo English.

When I ask learners if it's important in learning words, they always answer like this:

•Read them aloud : yes

•Remember them in sentences : yes

•Review them again and again : yes

•Write ithem with fingers : yes

•Take tests : yes

•Listen to the sounds on the CD-ROM : yes

•Use them : yes

Every learner answers that all of them are critical, but when I ask if they are doing them every day, only a few learners answer 'yes'.

ColloCollo will solve this issue.

語彙指導の難しさ（英語教師の立場より）

日々の単語テストは有効か？

- 意味のない単語をひたすら記憶していく（単語本による）英単語学習は、受験生の目に「苦行」と映る。（門田 2006）
- 最悪の場合は、成績のよい生徒にも、英語学習は孤独でつらいものと思わせ「英語嫌い」を生む。（門田 2006）
- 単語集の学習法が自分の学習法とあっていないにもかかわらず、その学習法を教師から強要されるという弊害も考えられる。（門田 2006）

生徒の習得語彙を把握しているか？

- 語彙学習においては学習者の日々の継続学習が必要であり、どの学習者がどのレベルまでの語彙を習得しているかモニターし指導するには教師に多大な負荷がかかる（姜 2008）

語彙指導を放棄していないか？

- 単語は学習者自信の努力によってのみ獲得されるものという既成概念が強く存在する（太田垣 1999）

が解決！

一方、英語教師にとって、一般的に語彙指導の難しさはどこにあると感じているでしょうか。

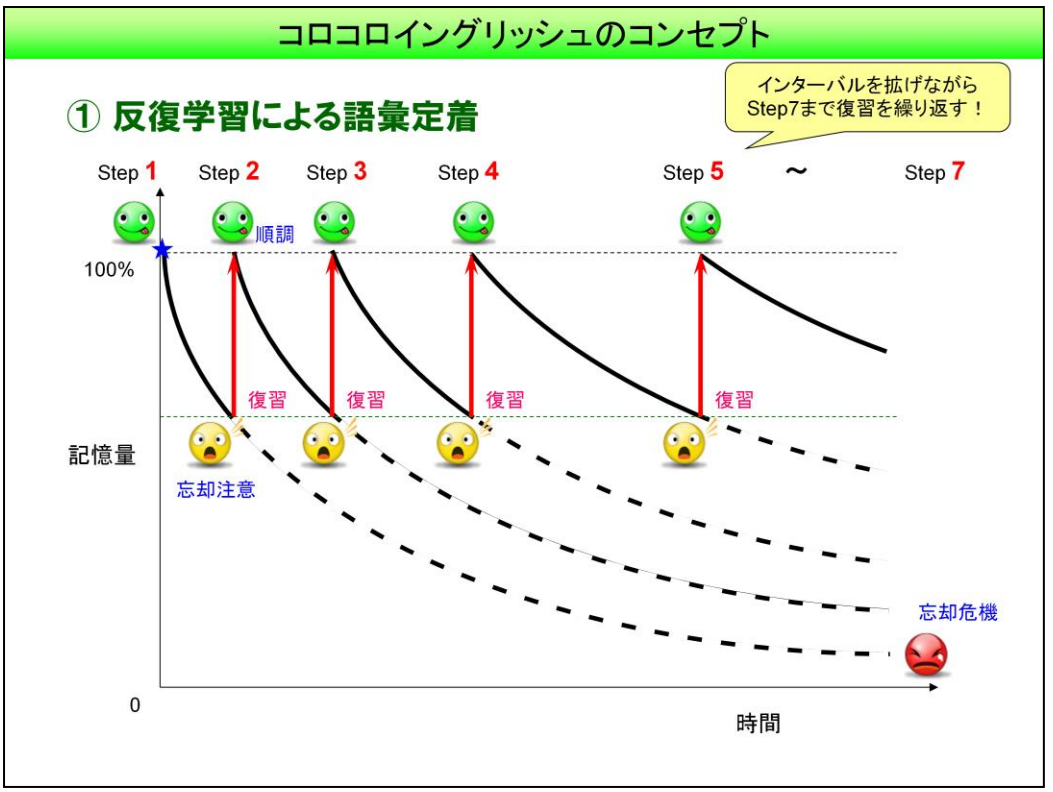
On the other hand, form the teachers' viewpoint, we have to think about the effectiveness of everyday or every-month word test.

Learners tend to feel it a heavy burden to remember words, nevertheless we teachers force them to study with boring word books.

What's worse, it's difficult for us to grasp which learners have acquired which words.

Finally we teachers tend to think of building up vocabulary as a thing that can be done only by learners' self-effort.

学習コンセプト



この仕組みは、1930年代に開発された学習理論に基づいています。人が記憶したものは一定期間が過ぎると忘却していきますが、ある時点で復習すると100％に戻ります。そのまま放っておくとまた忘却されていきますが、復習を繰り返していくうちに忘却の度合いは減っていき、最終的に限りなく100%に近づくことになります。この際、復習を繰り返すうちに間隔が伸びていきます。また、6～7回の復習で単語は定着すると言われています。

This system is based on a theory that was developed in the 1930s.

Even if one has remembered things perfectly, they will fade away following this famous curve, which is called ‘forgetting curve’ by Ebbinghaus.

But if one review them at a certain point, the memory can be restored.

The more one review them, the wider the interval becomes.

And it is said that 6 or 7 times of review is a threshold of learning words.

コロコロイングリッシュのコンセプト

コロコロイングリッシュのコンテンツは、単語・連語（熟語・定型句）を重複のないように含んだ例文集になっています。

例文単位で語彙を学習し、ある一定のタイミングでアイコンの色が変わるので、色が変わったタイミングで例文を復習します。

何度も復習を重ねるうちに Step が上がって行き、記憶が定着するまで復習を繰り返させる仕組みになっています。

The contents of ColloCollo English consist of series of sentences. Each sentence contains several target words and idioms without overuse.

After a certain days after studying a sentence, the color of the icon changes to yellow according to an algorism.

As the learners review the sentences following the sign, they can go to the higher step.

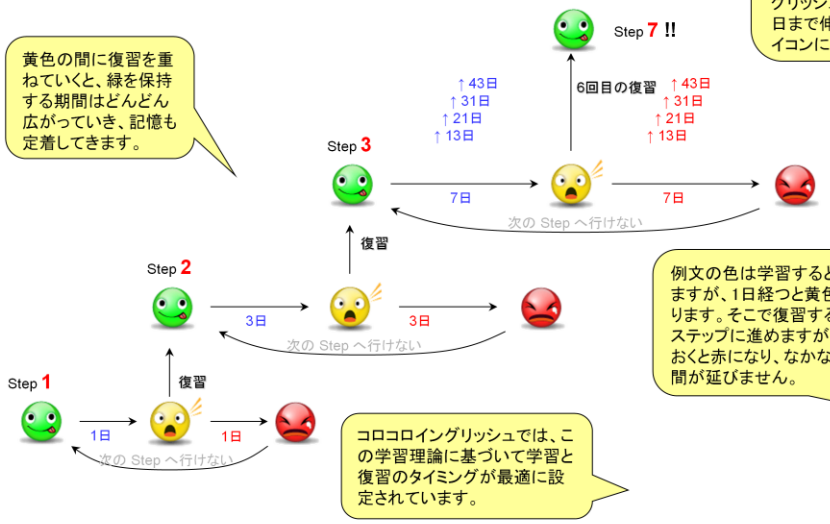
The more time they review the sentences, the stronger their memories become.

復習のアルゴリズム

『順調』・・・学習すると緑に

『忘却注意』・・・数日経つと黄色に → すぐに復習して次のStepへ！

『忘却危機』・・・放っておくと赤に → 上のStepに上がれない (T_T)



黄色の間に復習を重ねていくと、緑を保持する期間はどんどん広がっていき、記憶も定着してきます。

よく知られた実証研究によると、多読による語彙の習得では同じ単語に6回から7回出会うと、その単語は定着するそうです。コロコロイングリッシュでも、Step 7 の43日まで伸ばすと、「定着」アイコンに変わります。

例文の色は学習すると緑になりますが、1日経つと黄色に変わります。そこで復習すると次のステップに進めますが、放っておくと赤になり、なかなか復習期間が延びません。

コロコロイングリッシュでは、この学習理論に基づいて学習と復習のタイミングが最適に設定されています。

テストに合格し、

英語が使えるようになる！

コロコロイングリッシュのコンセプト

② 音読、発音チェック機能による音声情報の処理

- 語彙を習得する際に、当該目標単語や表現の発音や音韻群内での音声変化というような音韻的情報を統合して扱えてこそ、その語の総合的な英語力の向上へと繋がる。（岡田 2005）

③ 過去問・模試等の徹底分析に基づく頻度順単語・連語リスト

- 高校・大学入試、英検、TOEICに対応（初期リリース）
- 2013年センター試験カバー率（第2問：文法語法問題）
  → 41点／41点（総合2500まで）

その他の特徴として、学習者の音声を録音してモデル音声と聞き比べられる機能があります。

また、コロコロイングリッシュの例文集は入試、英検、TOEICなどの過去問や問題集を徹底的に分析して、それぞれの頻度順に並べ替えられた単語リストを基に作られているので、最小限にして最大限の学習効果を発揮します。

ColloCollo English enables the learners to record their own voices to compare them to native speakers' ones.

Also the word lists of each contents have been made thoroughly analyzing the entrance exams and other tests.

That's why the learners can get favorable result in each test very quickly.

実証された学習効果

留学帰りの高校3年生のあるクラスでは（16名）・・・

[TOEIC®]	クラス平均：604点 →（10ヵ月後）→ 726点
	900点台：4名（最高：940点） 800点台：3名
[英検]	準1級：5名 2級：3名
[国連英検B級]	6名

その他の高校生では・・・

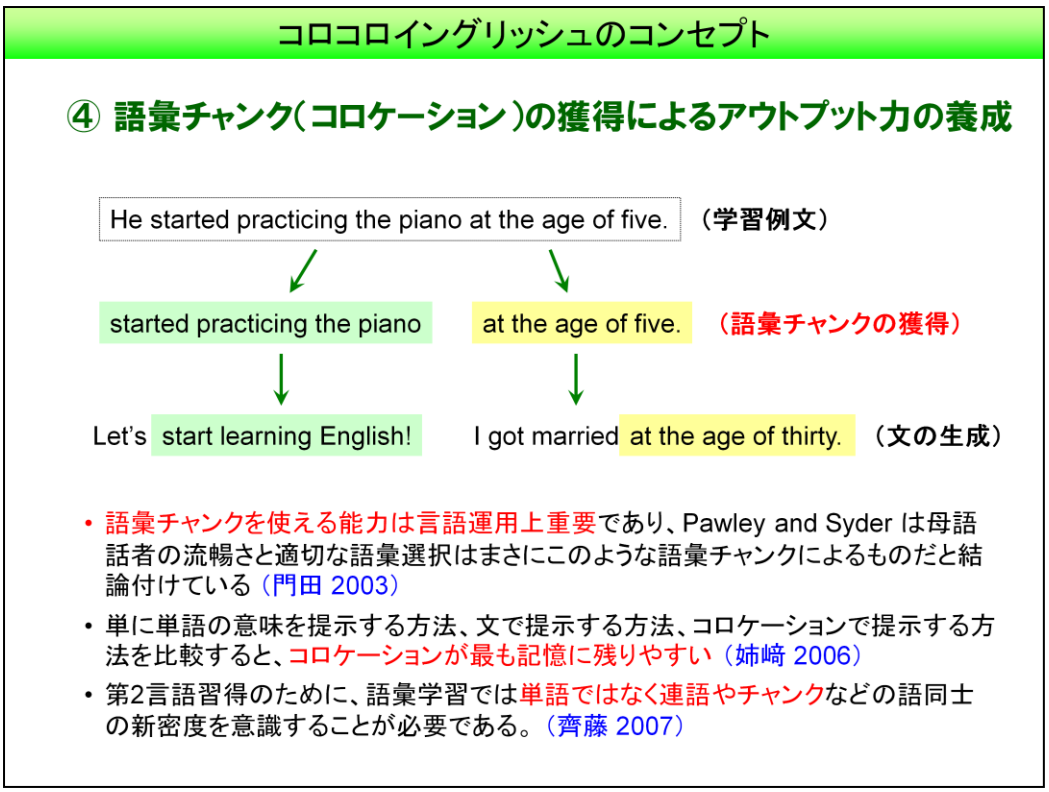
[TOEIC®]	男子A	560点 →（2ヵ月後）→ 740点
	男子B	385点 →（5ヵ月後）→ 625点
	男子C	660点 →（6ヵ月後）→ 860点
[センター試験]	男子D	模試67点 →（8ヵ月後）→ 本番150点（筆記） リスニング40点
	女子E	模試109点 →（6ヵ月後）→ 本番186点

これらの結果はコンテンツが Duo 3.0, Duo Select によるものです。

コロコロイングリッシュのコンテンツは、徹底的に各分野での過去問等を分析した語彙リストに基づいて製作されており、しかもレベルごとに小分けされているので学習者に合ったレベルから学習できるため、より短期間で効果が表れるものと期待しています。

These results came from the previous system whose contents were made from Duo and Duo Select, famous word books.

The contents of ColloCollo were made based on category-based word lists and divided into all learners' levels, so they will get the same or better results in relatively short period.



コロコロイングリッシュのコンテンツは例文で構成されていますが、実際には覚えた例文と全く同じ例文を使うことは滅多にありません。

初回の学習は例文単位ですが、復習はフレーズ単位で行います。

それによって、「使える英語力」を養うための基礎力を身に付けることができます。

つまり、獲得した語彙チャンクの単語を入れ替えて他の語彙チャンクは 文法チャンクと組み合わせることによって、新たな英文を生成することができます。

Although the contents of ColloCollo English consist of sentences, the learners will never use the same sentences in the future.

In this system, the learners can review the sentences phrase by phrase, which can improve their writing and speaking skills.

In other words, they can reproduce a new sentence replacing some words in the phrases.

This is a crucial concept of ColloCollo English.

「使える英語力」のために・・・

守・破・離

守破離は、日本での茶道、武道、芸術等における師弟関係のあり方の一つ。まずは師匠に言われたこと、型を「守る」ところから修行が始まる。その後、その型を自分と照らし合わせて研究することにより、自分に合った、より良いと思われる型をつくることにより既存の型を「破る」。最終的には師匠の型、そして自分自身が造り出した型の上に立脚した個人は、自分自身と技についてよく理解しているため、型から自由になり、型から「離れ」て自在になることができる。（Wikipediaより）

守 (Follow the Base) = 語彙チャンクの獲得、文法ルールの定着

破 (Modify) = 語を入れ替えながら新しい文を生成

離 (Become free) = 流暢に話す・書ける

語彙知識の深さ

I The word is not familiar at all.
（見聞きしたこともない）

II The word is familiar but its meaning is not known.
（見聞きしたことがあるが意味は知らない）

III A correct synonym or translation is given.
（同義語を挙げるか、意味を正確に答えることができる）

IV The word is used with semantic appropriateness in a sentence.
（その語の意味に即した使い方で文が作れる）

V The word is used with semantic appropriateness and grammatical accuracy in a sentence.
（その語の意味に即した使い方で、文法・語法的にも正確な文が作れる）

Paribakht & Wesche (1993) の Vocabulary Knowledge Scale (VKS)

コロコロイングリッシュ でⅤまで高める！

管理機能

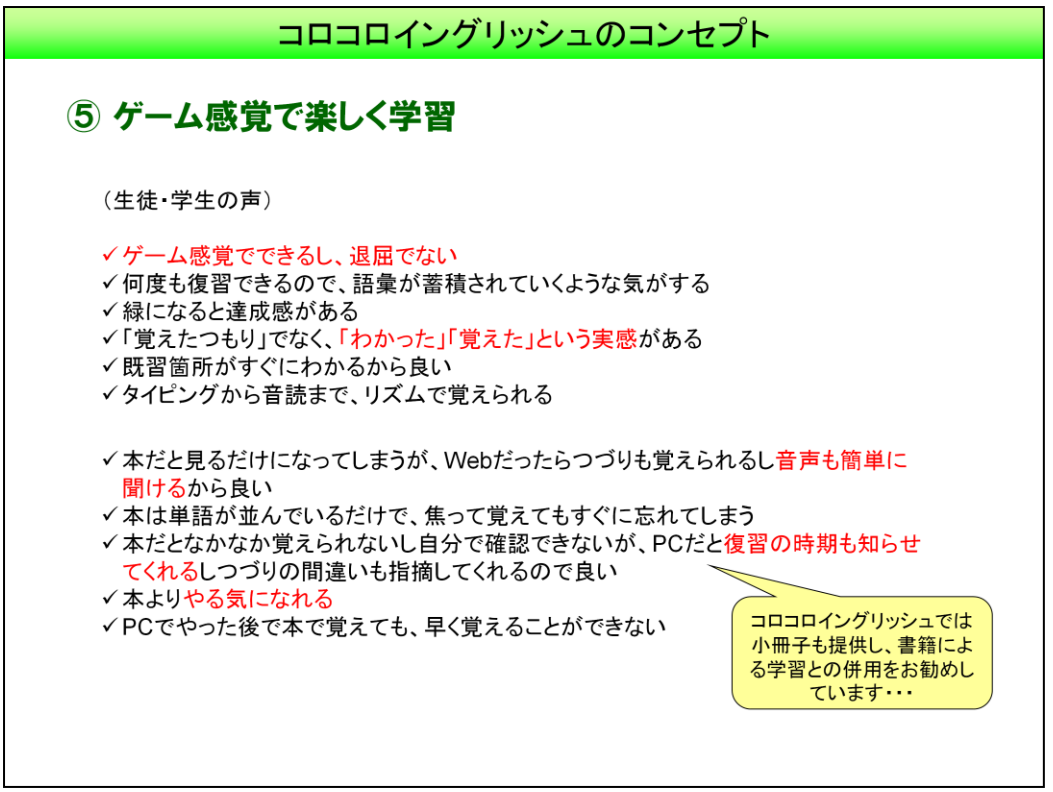
- ○ 生徒・学生の進捗状況（教師・保護者へのメール通知機能あり）
- ○ テストの実施、結果の自動集計（Excelでダウンロード）
- ○ ユーザ管理、グループ管理（登録・削除・名前の変更）

コロコロイングリッシュは、学校現場で生まれて学校現場で育ったシステムです。このような管理機能を備えていますので、指導する側と学習者が二人三脚の形で学習を進めることで最大限の効果を発揮することができます。

ColloCollo English was born at school and grew up at school.

Using these management functions, teachers and learners can work side by side to get the maximum effect.

生徒の声



さらに、ほとんどの学習者がゲーム感覚で楽しく学習できると答えています。

このことは、英語学習に対する意識の高い学習者だけでなく、英語が苦手な学習者も難なく学習に取り組めることを示唆しています。

What's more, almost all learners answer that it's fun to learn through this system because it's just like a video game.

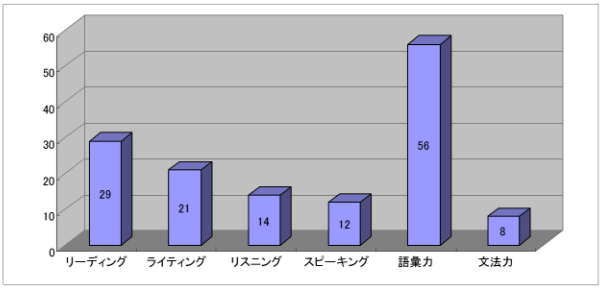
This implies that not only high level learners but low level learners can be involved in this system.

コロコロイングリッシュのコンセプト

「視認語彙」（見ただけで意味の取れる語彙）の獲得！！

（生徒・学生の声）
- ✓英検・模試・TOEICに単語が出てきたときは嬉しい
- ✓英検・模試・TOEICなどによく出てきて意味がわかるようになった
- ✓英検・模試で出たときに、意味が条件反射的に答えられた
- ✓コロコロイングリッシュで覚えた単語のお陰で長文の流れがわかったことがある
- ✓お陰で英検2級に合格しました
- ✓英文が以前より読めるようになった
- ✓模試などで、コロコロイングリッシュで覚えた形で前後の文章が頭の中で再生されて、意味がとれるようになった

語彙チャンクの獲得による、リーディング力の向上！！



どの技能が向上するか（姜 2008）

これらは学習者の声ですが、語彙力だけでなくリーディング力が付いたと答えた学習者が多い点に着目してください。

つまり、単語ごとではなく文単位、あるいはフレーズ単位で繰り返し学習して語彙チャンクを多く獲得することによって、「視認語彙」を多く獲得したことが、リーディング力を上げる要因になっていると考えられます。

These are learners' voice of my previous school.

One thing that draws my attention is that many learners answer that their reading skills improve through this system.

I think this is because they can acquire not only the meanings of words but also word chunks through reviewing them again and again.

That helps them read passages faster.

有効性を裏付けるその他の学習理論

① 二重符号化理論（dual encoding theory）

- 単語学習においては言語システムと図やその単語の持つイメージなどのイメージシステムの両方を利用することがより効果的である。（門田，池村 2006）

② 右脳の使用

- 語彙が使われる状況を設定すると、右脳がその語彙が使われている場面をそのまま取り入れて概念・イメージを形成し、それを音声と困難なく結びつけられる。その際意味は動作や作業で表されているので学習者はそれを真似するだけでよく、楽に覚えていくことができる。（門田，池村 2006）

③ 穴埋めによる復習

- 復習時に英文と和訳が提示されるだけよりも、英文の穴埋めをする作業を行う方がよい。想起することはより大きな心的努力が必要であるし、想起は普通の言語使用にしばしば必要とされるメカニズムによく似ているからである。（門田 2003）

④ タイピングによる脳の活性化

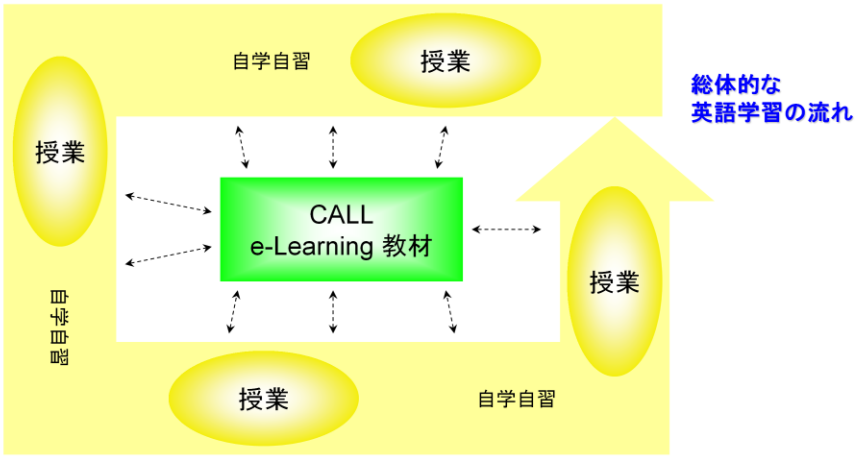
コロコロイングリッシュの学習効果は、これらの学習理論に裏づけされています。

Some major learning theories can back up the effectiveness of ColloCollo English.

門田，池村（2006）は、語彙習得の際の右脳の使用の有効性を説明している。語彙が使われる状況設定があり、その状況の中での実際の使用を通しての概念やイメージ形成をするのが右脳である。状況を設定すると右脳がその語彙が使われている場面をそのまま取り入れて概念・イメージを形成し、それを音声と困難なく結びつけられる。その際意味は動作や作業で表されているので学習者はそれを真似するだけでよく、楽に覚えていくことができるとしている。

導入例・授業実践例

eラーニングのあるべき姿



- 語彙の定着・増強を英語の学習指導全体の中で考え、この指導を有機的につなげて学習者の英語力を向上させるような実践が積み重ねられなければならない。（門田 2006）
- 教師の介在があってこそ生徒の動機づけは持続するし、ネットワーク上で生徒の学習と教師の管理がリンクされることによって、その形は一層強固なものになる（姜 2008）

CALL (Computer Assisted Language Learning) システムの成功は、指導する側と学習者とのコラボレーションなくしてありえません。

指導する側が授業や進捗管理を通して学習者の自学自習フェイズの中に積極的に介在することによって、学習者は日常的に英語に接しながら言語を習得することができるようになるのです。

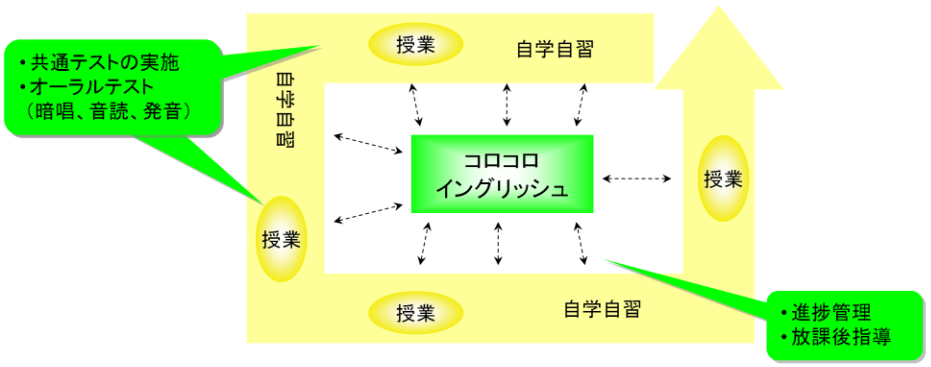
The success of CALL system depends on the management.

Intervening in learners' self-study will accelerate their learning cycle.

Thus ColloCollo enables them to keep up their motivation for learning.

コロコロイングリッシュの活用例 ①

① しっかり指導型



【期待される効果】

- 担当クラスのほぼ全員を引き上げることが可能
- 模試、入試、TOEIC、TOEFL等で最大の結果を得られる
- 「使える英語力」を高めることができる

コロコロイングリッシュの活用例 ②

② 週1回係わり型

【形態】

- 週1回の授業内で共通テスト（PCによる）、またはペーパーテスト
- 授業のない日は進捗管理または何もしない

【期待される効果】

- 意識の高い生徒を引き上げることが可能（クラス半数以上）
- 週1回のテストに向けて自学習のペースを作れる
- PCを使った授業では寝る生徒は1人もいない
- 授業以外で英語と接する機会を増やせる

週1回のテストの回し方

◇ 3ラウンド方式

<Round 1>　・・・ 単語の和訳テスト（1セクション／週）→ **既知語を増やす！**
<Round 2>　・・・ フレーズテスト（1セクション／週）→ **使える語を増やす！**
<Round 3>　・・・ 例文暗唱、応用（1セクション／週）→ **正確に使える語を増やす！**

I　The word is not familiar at all.
（見聞きしたこともない）
II　The word is familiar but its meaning is not known.
（見聞きしたことがあるが意味は知らない）
III　A correct synonym or translation is given.
（同義語を挙げるか、意味を正確に答えることができる）
IV　The word is used with semantic appropriateness in a sentence.
（その語の意味に即した使い方で文が作れる）
V　The word is used with semantic appropriateness and grammatical accuracy in a sentence.
（その語の意味に即した使い方で、文法・語法的にも正確な文が作れる）

Paribakht & Wesche (1993) Vocabulary Knowledge Scale (VKS)

- 1学期1コンテンツ／1年で2コンテンツが望ましい（1ラウンド3ヶ月～4ヶ月）
- 生徒のレベルに応じて回し方を対応（次頁）

3ラウンド方式の例

◇ 中学校（目標：中3で英検 準2級レベル）

年	学期	英文法L1	英文法L2	英文法L3	総合 500	総合 1000	総合 1500	総合 2000
1	1	○						
	2	○			Round 1			
	3	○			Round 2			
2	1	○			Round 2	Round 1		
	2		○		Round 3	Round 2		
	3		○			Round 3	Round 1	
3	1		○			Round 3	Round 1	
	2		○				Round 2	
	3			(○)			Round 3	(Round 1)

○:　　文法例文の暗唱
Round 1:　　週1回 単語の和訳テスト（緩い進捗管理）
Round 2:　　週1回 フレーズテスト、例文音読の発音チェック（厳しい進捗管理）
Round 3:　　暗唱のオーラルテスト、応用例文、エッセイライティングへ

3ラウンド方式の例

◇ 高校（目標：高2で英検2級レベル）

年	学期	英文法L3	英文法L4	総合 1500	総合 2000	総合 2500	総合 3000	総合 3500
1	1	○		Round 3	Round 1			
	2	○			Round 2	Round 1		
	3	○			Round 3	Round 2		
2	1		○		Round 3	Round 2		
	2		○			Round 3	Round 1	
	3		○				Round 2	
3	1						Round 3	Round 1
	2							Round 2
	3							Round 3

○:　　文法例文の暗唱
Round 1:　週1回 単語の和訳テスト（緩い進捗管理）
Round 2:　週1回 フレーズテスト、例文音読の発音チェック（厳しい進捗管理）
Round 3:　暗唱のオーラルテスト、応用例文、エッセイライティングへ

コロコロイングリッシュの活用例 ③

③ 月1回係わり型

【形態】

- 月1回の授業内で共通テスト（PCによる）、またはペーパーテスト
- 授業のない日は可能なかぎり進捗管理を行う
- 結果を評価点として定期考査に加味、考査範囲にも含める
- 不合格者には1週間居残りなどの課題を課す

【期待される効果】

- 多量のテストを簡単に実施できる
- 自立した学習者を伸ばすことができる
- 学習習慣のない生徒を集中的に指導できる

コロコロイングリッシュの活用例 ④

④ 完全自学習型

【形態】

- 生徒にIDのみ配布、使い方の説明は最初の1回のみ

【期待される効果】

- 非常に意識の高い生徒を引き上げることが可能（20～30%程度）
- 各自のペースで学習を進められるので、上位層を伸ばせる
- 留学後の生徒、国際関係に進学希望の生徒を伸ばせる

コンテンツの信頼性

コンテンツ（例文集）の信頼性

① 過去問、問題集等の徹底的な分析に基づく語彙リストの作成

（総合英語の例）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	【単語】	から	まで	語数	VSL avg	センター試験	大学入試	RITZ	中学ターゲ	DB4500	Duo 3.0	Duo Select	英検
2	Core 01	1	500	500	1.0	1.4	1.0	L1	L1				G4
3	Core 02	501	1000	500	1.0	3.5	1.4	L1					G4,G3
4	Core 03	1001	1500	500	2.0	3.4	1.2	L1,L2					G3,G2.5
5	Core 04	1501	2000	500	2.0	5.6	2.2	L2					G3,G2.5
6	Core 05	2001	2500	500	3.0	5.0	1.4	L3	none				G3,G2.5,G2
7	Core 06	2501	3000	500	3.0	6.6	2.8	L3,L4	none				G3,G2.5,G2
8	Core 07	3501	4000	500	4.0	6.4	1.8	L3,L4	none				G2.5,G2
9	Core 08	3001	3500	500	4.0	7.3	2.9	L4	none				G2.5,G2
10	Core 09	4001	4500	500	5.0	7.3	2.5	none	none				G2,G1.5
11	Core 10	4501	5000	500	5.0	7.9	3.7	none	none	none		none	G2,G1.5,G1
12	Core 11	5001	5500	500	6.0	7.8	3.1	none	none	none	none	none	G2,G1.5,G1
13	Core 12	5501	6000	500	6.0	8.1	4.3	none	none	none	none	none	G2,G1.5,G1
14	Core 13	6001	6500	500	7.0	7.9	3.8	none	none	none	none	none	G1.5
15	Core 14	6501	7000	500	8.0	rare	4.0	none	none	none	none	none	G1.5,G1
16	Core 15	7001	7500	500	8.0	rare	4.0	none	none	none	none	none	G1
17	Core 16	7501	8000	500	L4-L10	none	L3,L4	none	none	none	none	none	G1
18	Core 17	8001	8500	500	L5-L10	none	L4,L5	none	none	none	none	none	G1
19	Core 18	8501	9000	500	L5-L10	none	L5,L6	none	none	none	none	none	G1
20	Core 19	9001	9500	500	L6-L10	none	L6,L7	none	none	none	none	none	G1
21	Core 20	9501	10000	500	L7-L10	none	L7-L9	none	none	none	none	none	G1
22	Core 21	10001	10500	500	L11,L12	none	L3-L6	none	none	none	none	none	G1
23	Core 22	10501	11000	500	L11,L12	none	L6-L8	none	none	none	none	none	G1
24	Core 23	11001	11500	500	L10-L12	none	L8,L9	none	none	none	none	none	G1
25	Core 24	11501	12000	500	L9-L12	none	none	none	none	none	none	none	G1
26	Core 25	12001	12500	500	none	L7,L8,L9	L3-L9						
27	Core 26	12501	13000	500	none	none	L3,L4						
28	Core 27	13001	13500	500	L12	none	L5-L9						
29	Core 28	13501	14000	500	none	none	L5						
30	Core 29	14001	14500	500	none	none	L5,L6						
31	Core 30	14501	15000	500	none	none	L6						
32	Core X	15001	15650	650									

センター試験（共通一次）過去30年分（21万語）、大学入試問題5年分（1,200万語）における頻度分析、単語本9冊分の重要度、アルク12000語リスト、JACET8000語、AWL、GSL を総合的に加味し、単語を重み付け、レベル分け

コンテンツ（例文集）の信頼性

（英検の例）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	【単語】	から	まで	語数	級別語数	備考						
2	G4	1	681	681	1000	4級過去問に登場した単語（2回以上）						
3	G4-	682	884	203		4級過去問に登場した単語（1回）						
4	G4--	885	**1000**	116		登場していないが同等レベルの単語						
5	G3	1001	1258	258	1000	3級過去問に登場した単語（2回以上）					（4級以下を除く）	
6	G3-	1259	1455	197		3級過去問に登場した単語（1回）						
7	G3--	1456	**2000**	545		登場していないが同等レベルの単語						
8	G2.5	2001	2320	320	1500	準2級過去問に登場した単語（2回以上）					（3級以下を除く）	
9	G2.5-	2321	2651	331		準2級過去問に登場した単語（1回）						
10	G2.5--	2652	**3500**	849		登場していないが同等レベルの単語						
11	G2	3501	3861	361	2000	2級過去問に登場した単語（2回以上）					（準2級以下を除く）	
12	G2-	3862	4296	435		2級過去問に登場した単語（1回）						
13	G2--	4297	**5500**	1204		登場していないが同等レベルの単語						
14	G1.5	5501	5805	305	3000	準1級過去問に登場した単語（2回以上）					（2級以下を除く）	
15	G1.5-	5806	6573	768		準1級過去問に登場した単語（1回）						
16	G1.5--	6574	**8500**	1927		登場していないが同等レベルの単語						
17	G1	8501	9071	571	5602	1級過去問に登場した単語（2回以上）					（準1級以下を除く）	
18	G1-	9072	10246	1175		1級過去問に登場した単語（1回）						
19	G1--	10247	**14102**	3856		登場していないが同等レベルの単語						

1級～4級　過去6回分（20万語）における頻度分析、単語本20冊分の重要度、アルク12000語リスト、JACET8000語リスト、AWL、GSL を総合的に加味し、単語を重み付け、レベル分け

コンテンツ（例文集）の信頼性

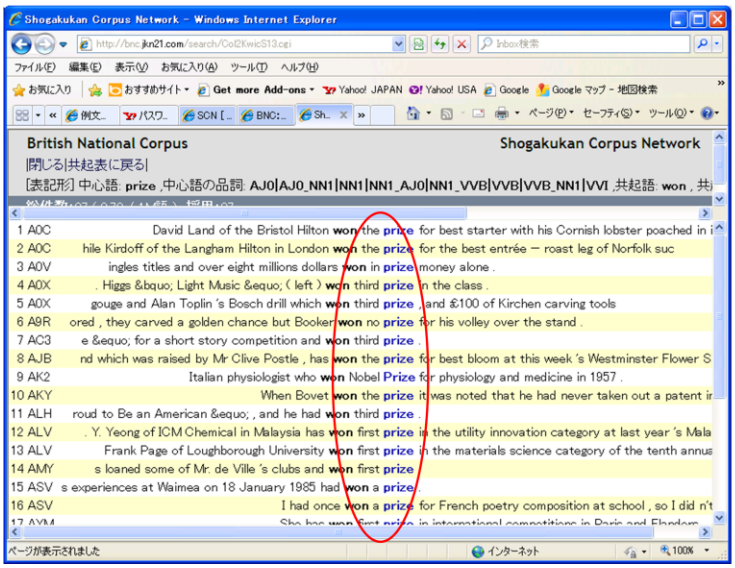
（TOEICの例）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	【単語】	Level	コンテンツ名	から	まで	語数	公式問題集	模試14回	単語本9冊	SVL平均
2	Base 1	TOEIC 300		1	400	400	◎	◎	×	1.0
3	Base 2	TOEIC 350		401	800	400	○	○	△易	1.1
4	Level 1	TOEIC 470	TOEIC Level1	801	1200	400	◎	◎	○易	1.9
5	Level 2	TOEIC 600	TOEIC Level2	1201	1600	400	◎	◎	○易中	3.1
6	Level 3	TOEIC 600	TOEIC Level3	1601	2000	400	○	○	○易中	4.1
7	Level 4	TOEIC 730	TOEIC Level4	2001	2400	400	◎○△	◎○△	○中	4.3
8	Level 5	TOEIC 730	TOEIC Level5	2401	2800	400	◎○△	◎○△	○中	5.9
9	T14-WB	TOEIC 860	TOEIC Level6	2801	3200	400	×	○△	◎中難	5.8
10	Level 6	TOEIC 860	TOEIC Level7	3201	3600	400	○△	○△×	○難	7.5
11	WB only	TOEIC 990	TOEIC Level8	3601	4636	1036	×	×	◎中難	7.4
12	Off,T14-rare	TOEIC 860		4637	4990	354	△	△	×	5.3++
13	T14-6>	TOEIC 860		4991	5417	427	×	◎	×	5.0++
14	Off-78	TOEIC 990		5418	5930	513	◎	×	×	6.4++
15	T14-78	TOEIC 990		5931	7596	1666	×	△	×	6.1++
16	Base 0			7597	7796	200	△	△	×	1.4

TOEIC模擬試験公式問題集10回分、そのほか問題集より模擬試験14回分（全22万語）における頻度分析、単語本9冊分の重要度、アルク12000語リスト、JACET8000語リスト、AWL、GSLを総合的に加味し、単語を重み付け、レベル分け

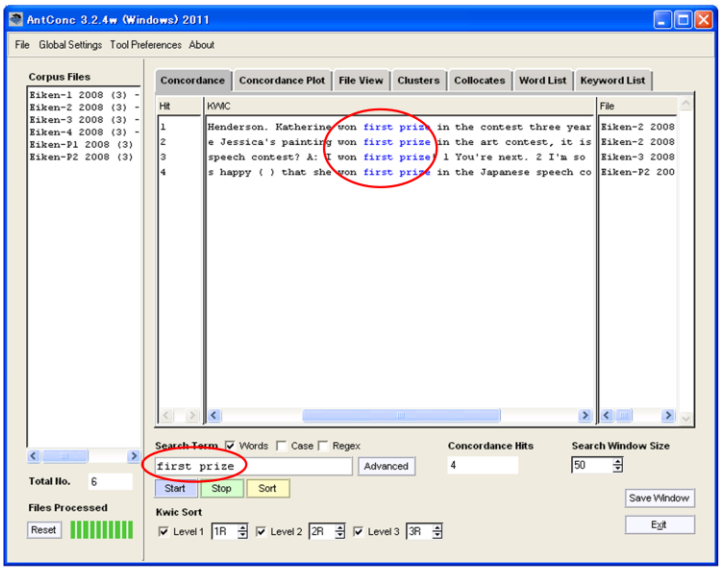
コンテンツ（例文集）の信頼性

② ターゲット語彙（ここではprize）のコロケーションの抽出



（世界最大のコーパスBNCより、高頻度コロケーション抽出の例）

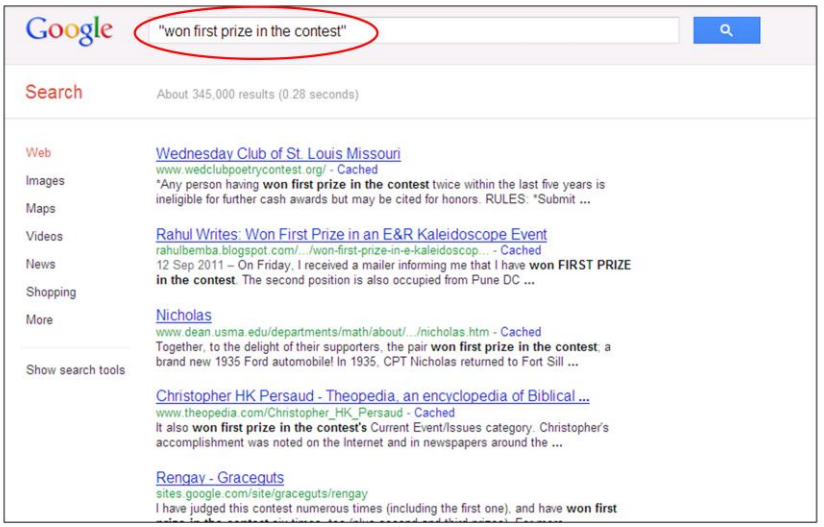
コンテンツ（例文集）の信頼性



（英検過去問より語彙チャンクの抽出の例）

コンテンツ（例文集）の信頼性

③ 例文作成（Web検索、アレンジ）



※ その他、VOA Learning English, Corpus of Contemporary American English, BBC Learning English, CNN, The Japan Times Online, New York Times, American Rhetoric Online Speech Bank など信頼できるサイトを参照

コンテンツ（例文集）の信頼性

④ 頻度、語彙レンジの検査（独自開発のツール）

※ 例文中の単語の使用頻度、語彙レベルを検査し、重複なく単語・連語を使いながら例文を作成するツールを独自開発しました

（画面イメージはありません）

⑤ ネイティヴチェック（3重）

コンテンツ（例文集）の信頼性

※ 英検、センターテストのカバー率

	英検3級 2008-2010	英検準2級 2008-2010	英検2級 2008-2010	英検2級 2014.1R	センター ~2012
	17478語	27959語	35846語	2872語	153044語
総合 500	83.4%	77.6%	68.4%	63.2%	68.7%
総合 1000	95.0%	91.0%	83.1%	78.4%	82.1%
総合 1500	98.0%	95.4%	88.8%	85.7%	87.9%
総合 2000	99.1%	97.6%	93.0%	92.0%	92.2%
総合 2500	99.5%	98.5%	95.8%	95.7%	95.0%
総合 3000	99.7%	99.0%	97.1%	97.2%	96.5%

※ コロケーションリサーチ社調べ
※ イディオムは分析対象に含まれていません
※ 2013年センター試験 第2問 カバー率 **100%**（文法語法問題 - イディオム含む）
※ 総合3500以上を順次開発予定
※ 95%以上が既知語であると、内容を理解できると言われています

Laufer (1989,1992)によると、通常のリーディングにおいて、内容理解に支障をきたさないためにはテクスト中の **95%** 以上の語彙が読み手にとって既知語である必要があります。表から読み取れることは、英検3級のテクストを読めるようになるにはコロコロイングリッシュの「総合1000」を、準2級は「総合1500」を、2級およびセンター試験は「2500」を学習しておけばよいということです。

なお、英検の分析は2008年から2010年の2年分の問題で行っていますが、4年後に実施された2014年1月の2級のリーディングのパートの分析結果と大差がないことから、これらの分析結果には信頼性があるということがわかります。

Laufer, B. (1989), “What Percentage of Text Lexis Is Essential for Comprehension?” In Lauren, C. and Nordman, M.

(Eds.) *Special Language: from Humans Thinking to Thinking Machine,* Clevedon: Multilingual Matters, pp. 316-323.

Laufer, B. (1992), “How Much Lexis Is Necessary for Reading Comprehension?” In Arnaud and Bejoint (Eds.)

Vocabulary and Applied Linguistics, London: Macmillan, pp. 126-132.

コンテンツ（例文集）の信頼性

※ 立命館宇治中学での英検結果（中学2年 2014.1）

→ 2013.9より4ヶ月間「総合500,1000」で学習（週1回ペーパーテスト）

3級	2013年度	保有率 97.1% 過去最高
準2級	2011年度	保有率 27.8%
	2012年度	保有率 27.7%
	2013年度	保有率 36.6%

準2級 受験者		500学習	1000学習
人数	**99**	**71**	**43**
平均得点	**35.1**	**32.6**	**38.7**
平均Mileage：		**358**	**359**
得点とMileageの相関：		**－0.269**	**0.453**

※ 相関係数

0.7 <	強い
0.4~0.7	中間の強さ
0.2~0.4	弱い
0.2 >	ない

〈考察〉 1) 1000の学習と得点との相関はあるが、500との相関はない

2) 既知語が95%を超えるには1500を学習する必要があるので（前頁の表参照）、1500を学習することにより相関はさらに高くなると期待できる

3) 準2級に合格するには1500の学習は不可欠（前頁の表参照）

（このページのデータの流用はご遠慮いただきますよう、お願いいたします）

コンテンツ（例文集）の信頼性

※ 立命館宇治高校での英検結果（高校1年 － 2級：2014.1）

高1一貫コース　2013.5より「総合1500」、2013.10より「総合2000」を学習
（週1回係わり型： PCによるフレーズテスト）

	2級 受験	1500	2000
人数	**96**	**96**	**96**
平均得点	**35.1**		
平均Mileage：		**628**	**256**
得点とMileageの相関：		**0.178**	**0.635**

※ 相関係数
0.7 <　強い
0.4~0.7　中間の強さ
0.2~0.4　弱い
0.2 >　ない

〈考察〉 1) 2000の学習と得点との相関はあるが、1500との相関はない

2) 2500を学習すれば既知語が95%を超えるので（前々頁の表参照）、相関はさらに高くなり2級合格者も増えると期待できる

3) 2級に合格するには2500の学習は不可欠（前々頁の表参照）

コンテンツのラインアップ

ラインアップ（2013.12.2現在）

パック名	コンテンツ名	項目分け	目標レベル	開発時期	開発者
総合英語	総合 500（文法・会話）	中1文法例文	中1 文法 + 中2 語彙（高校入試偏差値50、英検4級）	2012年10月完成	ローバル英語研究所
	総合 1000（文法・会話）	中2文法例文	中2 文法 + 中3 語彙（高校入試偏差値55、英検3級）	2012年11月完成	ローバル英語研究所
	総合 1500（文法・会話）	中3文法例文	中3 文法 + 高1 語彙（高校入試偏差値65、英検準2級、TOEFL380~440、TOEIC400）	2012年12月完成	ローバル英語研究所
	総合 2000（文法・会話）	高校基礎文法例文	高校基礎文法 + 高2 語彙（大学入試偏差値55、英検準2級～2級、TOEFL 440~500、TOEIC 550）	2013年1月完成	ローバル英語研究所
	総合 2500（テーマ別）	スキーマ別、応用文法例文	センター試験・大学入試偏差値60、英検2級、TOEFL 500~540、TOEIC 700	2013年10月完成	姜
	総合 3000（テーマ別）	スキーマ別	大学入試偏差値65、英検2級～準1級、TOEFL 520~560、TOEIC 750	2013年10月完成	姜
	基礎 3500	スキーマ別	大学入試偏差値68、英検準1級、TOEFL 540~580	（順次対応）	
	基礎 4000	スキーマ別	大学入試偏差値70、英検準1級、TOEFL 560~600	（順次対応）	
	基礎 4500	スキーマ別	大学入試偏差値73、英検準1級~1級、TOEFL 580~620	（順次対応）	
	基礎 5000	スキーマ別	大学入試偏差値75~、英検1級、TOEFL 600~	（順次対応）	
英検	英検 Level1	シーン別	英検4級～3級	2012年5月完成	姜
	英検 Level2	シーン別	英検3級～準2級	2012年5月完成	姜
	英検 Level3	スキーマ別	英検準2級～2級	2012年7月完成	姜
	英検 Level3+	スキーマ別	英検準2級～2級	（順次対応）	
	英検 Level4	スキーマ別	英検2級～準1級	2012年8月完成	姜・タロック
	英検 Level4+	スキーマ別	英検2級～準1級	（順次対応）	
	英検 Level5	スキーマ別	英検準1級	（順次対応）	
	英検 Level5+	スキーマ別	英検準1級	（順次対応）	
	英検 Level6	スキーマ別	英検1級	（未定）	
	英検 Level6+	スキーマ別	英検1級	（未定）	

（1コンテンツ当たり、単語500個前後、連語150個前後、例文100～130個）

700	コンテンツ名	項目分け	目標レベル	開発時期	開発者
TOEIC	TOEIC Level1	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 500-600	2012年6月完成	姜・タロック
	TOEIC Level2	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 550-650	2012年8月完成	姜・タロック
	TOEIC Level3	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 600-750	2012年10月完成	姜・タロック
	TOEIC Level4	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 700-860	2012年7月完成	天満
	TOEIC Level5	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 800-900	（将来対応）	
	TOEIC Level6	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 860-950	（将来対応）	
	TOEIC Level7	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 900-970	（将来対応）	
	TOEIC Level8	シーン別（全Part網羅）	TOEIC 950-990	（将来対応）	
TOEIC Part別	Part 1			（将来対応）	
	Part 2			（将来対応）	
	Part 3			（将来対応）	
	Part 4			（将来対応）	
	Part 5			（将来対応）	
	Part 6			（将来対応）	
	Part 7			（将来対応）	
英文法LIGHT	英文法LIGHT 1	中1~中2 英文法		2014年3月完成	姜・タロック
	英文法LIGHT 2	中2~中3 英文法		2015年3月完成	姜・タロック
	英文法LIGHT 3	中3~高1 英文法		2015年8月完成	姜・タロック
	英文法LIGHT 4	高校応用英文法		2015年12月完成	姜・タロック
ビジネス英会話	プレゼン			（将来対応）	
	会議			（将来対応）	
	説得・交渉			（将来対応）	
	オフィス			（将来対応）	
日常英会話	留学、海外旅行			（将来対応）	
	日常生活			（将来対応）	
	ネイティヴ表現			（将来対応）	

関連会社、モニター校導入実績

- 開発元：**コロケーションリサーチ株式会社**
- 販売元：**株式会社ラインズオカヤマ**
- 販売代理店：**株式会社アドバンストインターナショナル**
- 導入校／モニター校・塾・企業

立命館宇治中学・高等学校、岡山学芸館高等学校、福岡雙葉中学校・高等学校、奈良育英中学校高等学校、トキワ松学園中学・高等学校、京都女子中学・高等学校、ノートルダム女学院中学・高等学校、早稲田実業学校、中国学園大学、岡山県立大学、美作大学、山陽学園大学、ECC国際外語専門学校、明修塾、大真会館、パスカル英語教室、キャノンマーケティングジャパン株式会社

（参考文献）

望月 正道, 相澤 一美, 投野由紀夫（2003）.『英語語彙の指導マニュアル』大修館書店.

門田 修平, 池村 大一郎（2006）.『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店.

門田 修平（2003）.『英語のメンタルレキシコン』松柏社.

姉﨑 達夫（2006）. 全国英語教育学会『STEP英語情報』2006.7･8.

齊藤 英敏（2007）.『STEP英語情報』7･8.

太田垣 正義（1999）.『英語教育学・理論と実践の結合』開文社出版.

岡田 毅（2005）.「インターネット通信を利用したCALL（コンピュータ支援語学学習）における新しい英語語彙指導システムの研究」財団法人電気通信普及財団 研究調査報告書 第20号.